

# 入れ歯は人工臓器

## ●お口の働き

♪あなたが噛んだ小指が痛い♪  
この歌を覚えておられる方も多いと思いますが、お口の働きには愛情表現さえもあるのです。が、一般的には食べ物を摂取し、咀嚼し、味わう、吸う、嚥下などが、食物の消化に大切な唾液も分泌されます。その他、声を出し、歌い、会話するだけでなく呼吸道としても働いています。さらに手に代わって物をくわえたり、笛を吹いたり、時には闘争の武器として噛みついたりする。まさに口八丁手八丁です。中でも食べ物や物を良く咀嚼することは、脳に血液を送る第2の心臓といわれ、噛む筋肉の周囲にたくさん存在する血管の写像を見てもおわかりのように(写真1)口は生命と健康を維持する源となっているのです。



写真1/噛むことは第2の心臓

## ●なるべく削らない！ 神経を抜かない治療を！

多くの人は、日頃健康のありがたさを忘れ、悪くなって初めてそのありがたさに気がきます。歯もそうです。痛くなつてやむなく来院という方が多い。虫歯や軽い歯周病であれば数回の治療で確実に治りますが、重い歯周病ともなれば治療期間も長く、治療方法も複雑です。虫歯もやせたあごの骨も、自然に治る事は絶対にありません。早期発見、早期治療を心がけて定期的にかかりつけ歯科医にチェックを受け、少しでも悪い歯が見つければなるべく削らない！なるべく神経を抜かない！早期治療で済ませましょう。そして、長く良い歯の健康状態を維持してほしいものです。(写真2)



写真2/健康な歯と歯ぐき



中西歯科医院  
院長 中西 保二

S48.愛知学院大学歯学部卒業。S55.中西歯科医院開業。  
※歯科医師臨床研修指導医  
※日本歯科医師会認定産業歯科医  
※元広島歯科衛生士専門学校講師  
※日本審美歯科学会会員

専門/総義歯・部分床義歯・矯正・インプラント

## ●入れ歯は人工臓器

もしも不幸にして、28本全ての歯を失うことになれば(写真3)人生最大の楽しみである「食べる事」「味わう事」が出来なくなってしまう。歯を失った総入れ歯の患者さんこそ歯科における最も重症の患者さんであると思ひ、次のように取り組んでいきます。



写真3/全ての歯を失ったあご

①個人個人のオーダーメイド  
入れ歯は、既製服のような方法で一律に作るわけに行きません。洋服のオーダーメイドで丈や裾、袖の長さを合わせるように入れ歯も各個人にあった状態に作り上げていきます。

②入れ歯の型は普段の生活の中での  
たった1回の型とりで入れ歯を作ったが、痛くて噛めないということも起きってきます。そこでこのようなことが起きないようにまず診断のための入れ歯を作ります。白い色をした粘膜調整剤をその入れ歯の内面にはり、1ヶ月近く患者さんに普段通りに使っていただきます。すると、



写真4/1ヶ月近く使った診断用入れ歯

本当にその人に合った良い型が取れます。(写真4)診断用入れ歯を使っている間に噛み合わせの異常が見つければ、人工の歯をはずし



写真5/噛み合わせの異常が出た診断用入れ歯

正しい位置に手直します。(写真5) 6)粘膜に痛みがあれば削って調整します。(写真7) 良好になった最終の入れ歯は、人工の歯だけをはずし、型はそのまま利用し、精密な入れ歯に置き換えるだけ。(写真8)

③入れ歯は定期チェックで長く使う  
40歳で全ての歯を失い、35年以上入れ歯の生活でも健康に明るく過ごしている患者さんもおられます。不幸にも歯が全く無くなつても、入れ歯を人工の臓器として大切に取り扱い、定期的には歯科医のチェックを受け、いつまでも快適な生活を送って下さい。



写真6/人工の歯を正しい位置に手直し

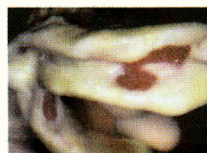


写真7/内面の赤いとこが痛む



写真8/完成した入れ歯

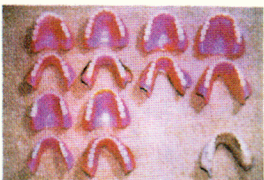


写真9/従来の方法で作られた1人の患者さんの入れ歯